

複数施設からの多剤投薬による薬物相互作用と有害事象への対応事例

【入院時処方内容】				【退院時処方内容】			
薬剤名（一般名）		規格	1回量 用法	薬剤名（一般名）		規格	1回量 用法
1	アミオダロン塩酸塩錠	100mg	1錠 朝夕食後	1	アミオダロン塩酸塩錠	100mg	1錠 朝夕食後
2	ペラミル塩酸塩錠	40mg	1錠 朝昼夕食後	2	ワルファリン錠	1mg	1錠 夕食後
3	ワルファリン錠	1mg	1.25錠 夕食後	3	ピソプロロールフルマ酸塩錠	2.5mg	1錠 朝食後
4	ピソプロロールフルマ酸塩錠	2.5mg	1錠 朝食後	4	タムスロシン塩酸塩錠	0.2mg	1錠 夕食後
5	タムスロシン塩酸塩錠	0.2mg	1錠 夕食後	5	クロルマジノン酢酸エステル徐放錠	50mg	1錠 夕食後
6	クロルマジノン酢酸エステル徐放錠	50mg	1錠 夕食後	6	レバミピド錠	100mg	1錠 朝昼夕食後
7	レバミピド錠	100mg	1錠 朝昼夕食後	7	ジアゼパム錠	2 mg	1錠 朝昼夕食後
8	ジアゼパム錠	2 mg	1錠 朝昼夕食後	8	ピタバスタチンCa錠	1 mg	1錠 夕食後
9	ピタバスタチンCa錠	1 mg	1錠 夕食後	9	セレコキシブ錠	100mg	1錠 朝夕食後
10	エシタロプラムシウ酸塩錠	10mg	1錠 夕食後	10	メコバラミン錠	500μg	1錠 朝昼夕食後
11	セレコキシブ錠	100mg	1錠 朝夕食後	11	エビリゾン塩酸塩錠	50mg	1錠 朝昼夕食後
12	メコバラミン錠	500μg	1錠 朝昼夕食後				
13	エビリゾン塩酸塩錠	50mg	1錠 朝昼夕食後				

内服薬 : 13種類	薬剤管理 : 本人
服薬回数 : 3回	服薬支援 : お薬ケース

内服薬 : 11種類	薬剤管理 : 本人
服薬回数 : 3回	服薬支援 : 一包化

【患者情報】 60歳代 男性 入院患者 (入院期間 : 12日)

診療科 : 循環器内科

主疾患	心房細動（抗凝固療法実施）、前立腺肥大症、慢性心不全、腎性貧血、慢性腎不全、脂質異常症				
病歴	心房細動				
生活状況・入院契機など患者背景	心房細動で当院に通院していた患者であったが、1年前よりかかりつけ医（Aクリニック）に紹介され投薬を受けるようになった。今回、動悸が強いためかかりつけ医を受診したが、症状がおさまらないため当院へ紹介となった。				
認知症	なし	介護認定	なし		
薬剤有害事象	あり	徐脈、QT延長	副作用歴	なし	()
アドヒアランス	やや不良	()	アレルギー歴	なし	()

【入院時情報】

初回介入時の処方内容を確認した際、Rp 1～4がA施設（かかりつけ医）、前立腺肥大症の治療としてRp 5～6がB施設（泌尿器科専門クリニック）、神経痛や腰痛、脂質異常症等の投薬としてRp 7～13がC施設（内科）から処方されていたことが分かった。さらにA～C施設それぞれの近隣薬局で投薬を受けており、薬局が統一されていないことが分かった。

検査値情報（入院時）：PT-INR : 3.4、PR : 42回/min、QTc（補正QT間隔）:560ms

【key word】

薬学的な管理、入院時の持参薬鑑別、薬歴聴取による処方提案、副作用等による健康被害が発症した時の対応、退院指導時の情報提供によるアドヒアランスの向上・維持

【処方見直し前の問題点】

- # 1 A施設のワルファリンに対し、A施設のアミオダロン及びC施設のセレコキシブ錠との相互作用によりワルファリンの作用が増強（PT-INR 3.4）している可能性がある。
- # 2 入院時のバイタルサインでは、脈拍：42回/minと徐脈であり、抗不整脈薬の2剤併用による有害事象の可能性はある。
- # 3 心電図検査からQT延長が認められ（QTc:560ms）、原因薬剤としてC施設のエスシタロプラムシウ酸塩錠の可能性はある。
- # 4 服薬アドヒアランスがやや不良であることは、A～Cの3つの施設の受診、かつ、それぞれの近隣薬局で投薬を受けていたことが原因である可能性がある。また、相互作用等の問題もあり、お薬手帳も機能していなかったことが問題である。剤数も多くシートで管理していたが、間違えて服用することもあり、残数がばらばらであり、特に昼食後のお薬はあまり服用していない状況であった。

【処方提案の具体的な内容】

- # 1 ワルファリンの作用が増強されたことが疑われたため、アミオダロンの減量を医師に提案した。
- # 2 ベラパミルとピソプロロールフルマル酸塩錠による徐脈が疑われたため、医師に減量あるいは中止を提案した。
- # 3 QT延長が認められたこと、エスシタロプラムシウ酸塩錠はQT延長には禁忌であること、また精神症状も落ち着いていることから看護師と協議して医師に中止を提案した。
- # 4 複数施設の受診および複数薬局からの投薬があったため、かかりつけ薬局をもつように患者にすすめた。また、ワルファリンなどのハイリスク薬を間違えて多く服用してしまうリスクもあるため、退院後も一包化を継続してもらうように提案した。

【多職種との関わり】

職 種	主な連携内容
医師	相互作用や有害事象の情報提供と処方提案。服薬状況の情報提供。服薬継続のための提案。
かかりつけ医	診療情報提供書にて情報提供
病棟看護師	患者精神症状の協議
保険薬局薬剤師	施設間情報連絡書にて情報提供

【減薬後の経過】

- # 1 ワルファリンが1.25mgから1mgへ減量となった。退院時には、PT-INRも2.4と安定した。アミオダロンは治療上継続することとなり、ワルファリン投与量の見直しとなった。
- # 2 まず、ベラパミル錠が中止となり、脈拍も42回/minから56回/minへ改善した。ピソプロロールフルマル酸塩錠については、継続することとなり、モニタリングしていくこととなった。
- # 3 エスシタロプラムシウ酸塩錠の中止に伴い、退院時にはQT延長は改善した（QTc:560ms→462ms）。また、SSRI中止後も精神症状は落ち着いており、セロトニン離脱症状などの中止後症状みられなかった。
- # 4 入院中は施設ごとに一包化し服薬アドヒアランスの改善が認められたが、退院後も薬の一元管理が出来るように、1か所のかかりつけ薬局で薬をもらうことを提案し患者さんにも同意いただいた。また、今後のかかりつけとなる薬局には薬剤管理サマリーを提供した。今回の入院を契機に処方変更となったA、C施設には、医師から診療情報提供書にて経過報告された。